後屋敷小学校

研究主題　　思考力・判断力・表現力の育成

～言語活動の充実をめざして～

I　研究の内容

1　研究内容について

○授業実践

思考力・判断力・表現力等を育てる言語活動を取り入れる。

「活用力」「学級力」について，各学年の発達段階に合った取り組みをする。

○「やまなしスタンダード」との関連を図りながら，研究を進める。

○児童の実態分析と指導法の改善

山梨県学力把握調査（3,5 年），全国学力学習状況調査（6 年）の結果分析から，本校児童の実態把握をし，授業づくりの視点や指導法の共通理解を図る。

○学びの基礎となる学習環境づくり

発達段階に応じたノート指導を系統立てる。

家庭学習の充実をめざして家庭への啓発を図りながら，学習習慣の定着を図る。

2　研究方法について

・授業実践を通して研究を深める。

・[低学年部会][高学年部会]の２ブロックを基本にして，授業研究を行う。

・ブロックごと１本の授業研究をもつ。

・部会研究の内容を交流し合い，共通理解を持つ。

・一人一実践の取り組みとして，全学年の授業を公開し合う。

3　具体的実践

（1）理論研究

「言語活動の充実に向けて」

「学級力向上プロジェクトについて」

「山梨市学力向上の取り組みについて」

「家庭学習への取り組みについて」

「インクルーシブ教育・合理的配慮について」

講師　飯嶋多三恵先生（県立かえで支援学校）

（2）研究授業

第３学年　算数科　「かけ算のしかたを考えよう」　　授業者　岩下秀人教諭

指導助言　山梨県総合教育センター　雨宮　友成主査・指導主事

第４学年　国語科　「委員会活動を紹介するリーフレットを作ろう」

授業者　山宮　由紀教諭

指導助言　山梨県総合教育センター　中村　英彦主幹・指導主事

（３）授業実践

第１学年	算数科「けいさんピラミッド」	高野恵美子教諭
第１学年	算数科「どんなけいさんになるかな」	廣瀬　明子教諭
第２学年	算数科「かけ算（２）」	小椋　恵美教諭
第５学年	算数科「面積の求め方を考えよう」	深澤　真人教諭
第６学年	算数科「関係をみつけて」	今澤比呂樹教諭
第６学年	理科「水溶液の性質とはたらき」	武井　茂　教諭
すみれ学級	自立活動「音楽に合わせてワクワク」	川崎　幸江教諭
たんぽぽ学級	算数科「分数」	窪川純一朗教諭

Ⅱ　成果と課題

◇「やまなしスタンダード」を念頭におき，日々の授業実践を積み重ねた。めあての提示，自力解決，学び合い，振り返り等，探求型の授業の確立と言語活動の充実を図ることを全員で確認しながら研究を進めることで，学習内容の定着をめざすことができた。

◇低高学年の２ブロック研究の特性を生かすことで，発達段階に応じた板書計画やノート指導，家庭学習への取り組み等，系統づけることができた。

◇自力解決と学び合い，一斉指導とペアや班学習との時間配分等を考えながら時間内に有効な言語活動を仕組むことができた。聞く側の視点を明確にさせる工夫も見られた。今年度は，自己の考えを記述するワークシートやノート指導等に工夫が見られた。

◇家庭学習を通して育てたい児童の姿を全教師で確認し，家庭学習の習慣や方法等を各学年の発達段階に応じた「家庭学習の手引き」にまとめることができた。学期１回の「家庭学習強化週間」を設け，全校児童一斉に家庭学習に取り組み，家庭学習の習慣化をめざした。保護者や児童からの感想も全体に返すことで，双方向となるようにした。

◆学力の向上には，学級の安定が不可欠である。児童が自己表現できる「居心地のよい場」となる学級経営を誰もが展開できるよう，教師力を高める必要がある。今後も，「学級力向上」に向けての取り組みを継続して，実践していきたい。

◆昨年度よりも無記述率が低くなったが,各種学力テストの「活用問題」「記述式問題」について課題が残っている。高まった意欲を確かな学力へつなぐための取り組みを継続していく必要がある。

◆本校では４学年が３５人以上の単数（その内３学年はアクティブ加配）である。単元や学習内容により，ＴＴ指導を取り入れ，学習形態の工夫を行っている。個々の児童の見取りを適切に行いどう授業に生かしていくのか，また自力解決や発言の機会の確保，支援を必要とする児童への手だてをどう講じていくのか等に，課題が残る。

◆家庭との連携を図りながら，授業内容と家庭学習の関連づけや家庭学習の手引きの活用を通して，「家庭学習」の習慣化を促進していきたい。

Ⅲ　成果物

〇研究授業学習授業案及び資料　〇授業実践授業案　〇「後小・家庭学習のてびき」

（研究主任　廣瀬明子）